

WINE

Magazine

英誌 WINE と提携
月刊 the HOTEL 4月号別冊

1999 vol.4
1200 yen

縦込別冊
チリワイン

Chile Wine
Perfect Guide Book

特集

ブルゴーニュ

21世紀を担う造り手たち。

ポルトガル

ポルトガル縦断。





文=矢幡聡子
text by Satoko Yahata
写真=伊藤信太郎
photographs by Sintaro Ito

新春早々の旅先は、うれしいことに香港であった。リラックスのためや親友たちの顔を見に行くためだけでなく、1月15日から2月13日の間開催している第27回「香港芸術祭」を視察観劇する4日間である。昨年、芸術祭の理事長であり、日本と香港の懸け橋となつて数々の役職を務めているマーティン・バロー氏からぜひ芸術祭へとお招きがあつて実現した。

新しい顔ともいえる、モダンで未来都市を想像させる香港新国際空港にキャセイ航空で降り立ち、宿泊先のグランドハイアットホテルへ向かう。ホテルにリムジンが着きドアが開くと、目の前で出迎えてくれたのは総支

配人のデヴィッド・ユデル氏。彼は東京のパークハイアットオープン当時、総支配人だったときからの知人で、誰もが認める大変な実力の持ち主。東京から香港のグランドハイアットに異動したのも、ホテル活性化のためだと聞いている。東京のパークハイアットを手掛けたデザイナーが今回部屋の改装をしたと聞いて楽しみにしていたが、シンプルでシック、洗練されていて、特にライティングが素晴らしい。

着いた晩、香港芸術祭の今年の目玉であり、香港始めて以来の出演者総勢250人のオペラ、チャイコフスキーの「スベードのク

Unforgettable Hong Kong 1999

ーン」のオープニングを観劇する。私にとってこの演目の主役は、舞台上の歌手たちというよりも、音楽監督であり指揮者でもあるValery Gergievである。彼はセント・ピータースベルグのマリンスキー劇場の音楽芸術監督、首席指揮者として現在、世界で最も注目されているマエストロである。昨年暮れに

日本でのコンサートを聴いて魅かれていた。4時間という長大なもので、舞台美術もシンプル、アリアも特に知られてはいない。1幕目では最後まで見るのは疲れる

のではないかと心配していたが、彼のオーケストラとリサ役のソプラノ、Galina Gorchakovaの美声のおかげで2幕、3幕と盛り上がり素晴らしい舞台となり聴衆も熱気にあふれていた。終演後、ホテルに戻りシャンパン・バーでおいしい「グラン・ダム」を開けて至福の時間を過ごす。

翌日はマーティン・バロー氏の自宅でのランチパーティーに招待された。東洋と西洋の精髄を調和させた邸宅のパーティオで、明るい陽差しを浴びながらのおいしい食事。マエストロ、Gergievをはじめゲルマン役のYuri Marustin、今回のディレクター、Alexander Galybin、香港のポップヒットメーカー、Calvin Poonなどと同席する機会に恵まれた。実はマエストロは、昨晚の公演のために

矢幡聡子

CORE S LTD.代表取締役
聖心女子学院大学卒業後、
スイス、フランスへ留学。
欧州国連本部、小谷正一
事務所を経て CORE S
LTD.を設立。主な仕事は
国際文化交流事業企画運
営。最近はPRコンサルタ
ント、衛星TVのプロデュ
ーサー、エッセイストとし
て活躍している

